

平成29年9月23日
健康増進課 感染症対策担当
担当者 古賀、横尾
内線 1836、1851 直通 0952-25-7075
E-mail: kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp

細菌性赤痢の集団発生※1がありました

9月21日（木曜日）、佐賀市内の医療機関から、細菌性赤痢の発生届が佐賀中部保健福祉事務所にありました。

同事務所による調査の結果、届出患者の他に、届出患者の友人1名から赤痢菌の感染が確認されました。

現在、同事務所において感染経路等に関する調査を行っています。

細菌性赤痢は、アジア地域などへの渡航後に発症する事例が多くみられますが、国内での二次感染（感染者から他の人へ感染すること）や汚染された食品から感染することもありますので注意が必要です。

なお、今回の情報提供は、広く細菌性赤痢に対する啓発と注意喚起を目的に行うものです。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条において求められているように、患者の人権尊重には御配慮、御理解いただきますようお願いいたします。

※1 集団発生とは、同一感染経路で2例以上発生した場合をいいます。（同一世帯のみは含みません）

記

1 届出患者の状況

9月3日（日曜日）からフィリピンに2週間滞在

9月14日（木曜日）水様性下痢が出現

9月17日（日曜日）夜、帰国

9月18日（月曜日）食欲不振が出現、夜間38度の発熱があり、医療機関を受診

9月19日（火曜日）医療機関で検便実施

9月21日（木曜日）に赤痢菌の感染が判明

患者は現在、快復に向かっています。

2 接触者調査の状況

患者と接触のあった18名（患者家族及び友人等）に対して、9月21日（木曜日）から9月22日（金曜日）にかけ、感染拡大予防について指導し、

調査及び検便を実施したところ、9月23日（土曜日）に1名の赤痢菌の感染（患者）が確認されました。

現時点での患者の状況をまとめると次のとおりとなります。

患者	年齢	性別	届出年月日	備考
① 届出患者	20歳	女	平成29年9月21日	佐賀市在住 発症日：9月14日 症状：発熱、下痢、悪心
② 患者	20歳	男	平成29年9月23日	佐賀市在住 発症日：9月21日 症状：発熱、下痢

3 対応

- (1) 患者家族及び友人等の接触者の健康調査及び検便を実施し、消毒及び手洗い等の感染拡大予防について指導しました。
- (2) 感染が確認された1名（②患者）については、すでに医療機関を受診しています。また、赤痢菌の陰性が確認されるまで外出を控えるよう依頼し、消毒及び手洗いの徹底について再度指導しました。

4 県内の細菌性赤痢の発生件数（平成29年9月23日現在）

（単位：件、人）

年	24	25	26	27	28	29
件数	1	0	1	0	0	1 ^{※2}
感染者数	1	0	1	0	0	2 ^{※2}
うち、海外渡航歴のある者の数	1	0	1	0	0	1 ^{※2}

※2 今回の事例含む。

《細菌性赤痢について》

細菌性赤痢は、赤痢菌によって起こる感染症です。

赤痢菌に汚染された水、氷、食品などを摂取することにより感染しますが、非常に少ない菌量でも感染することから、食器や箸を介して感染することもあります。

赤痢菌に感染すると、1～5日（通常、1～3日）で発症し、下痢、発熱、腹痛などの症状が出ます。

乳幼児や高齢者は、脱水症状を起こしやすいので注意してください。

病原性が強い種類の菌に感染すると、血便や※しぶり腹を起こすこともありますが、近年では重症例は少なく、数回の下痢や軽度の発熱で経過する事例が多くなっています。

赤痢菌は、二次感染（感染者から他の人に感染すること）する可能性がある病原菌ですので、排泄後や調理前などは手洗いを十分にしましょう。

※しぶり腹とは、排便した後でもすっきりせず、またトイレに行きたくなる状態

- ◆海外に渡航する際は、生水、氷、生ものを避けましょう
 - ・不衛生な飲食店や屋台などでの飲食には注意が必要です。

- ◆帰国後に気になる症状があったら、医師の診察を受けましょう。
 - ・医療機関を受診する時には、医師等に渡航歴を伝えてください。
 - ・主な症状は、下痢、発熱、腹痛などです。
 - ・適切な抗生物質等の治療で早期に快復する病気です。下痢や発熱に対しては対症療法が行われることがあります。
 - ・くれぐれも自己判断で市販の下痢止めなどを飲まないでください。

- ◆二次感染を防ぐため、下痢症状のある人や周囲に下痢症状のある人がいる場合は、石けんで念入りに手を洗いましょう